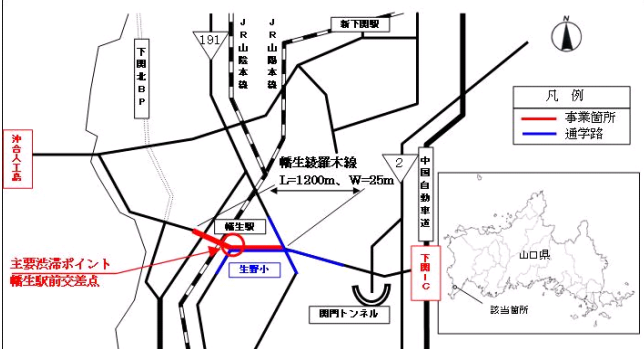


再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：中国地方整備局都市・住宅整備課  
担当課長名：山口 陽

事業名	幡生綾羅木線		事業区分	街路	事業主体	山口県
起終点	自：山口県下関市幡生宮の下町 至：山口県下関市武久町一丁目		延長	1.2 km		
事業概要	<p>本路線は、中国縦貫自動車道下関ICと平成20年度一部供用予定の特定重要港湾下関港沖合人工島、国道191号下関北バイパスを連絡する延長1.2kmの道路である。国道191号及びJR山陽本線と立体交差し、市街地内の渋滞緩和、人工島に関連する交通の円滑な処理を図るとともに、狭小な通学路を拡幅整備することにより、安全で快適な歩行空間を確保するものである。</p>					
H9年度事業化	H2年度都市計画決定 (H10年度変更)	H11年度用地着手	H15年度工事着手			
全体事業費	158億円	事業進捗率	96%	供用済延長	0.1 km	
計画交通量	12,700台/日					
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) -	総費用 (残事業)/(事業全体) - /173億円 事業費： - /172億円 維持管理費： - /0.60億円	総便益 (残事業)/(事業全体) - /210億円 走行時間短縮便益： - /185億円 走行費用減少便益： - /7.4億円 交通事故減少便益： - /18億円	基準年 平成18年		
感度分析の結果	<p>事業全体について感度分析を実施          交通量変動：B/C=1.3（交通量+10%） B/C=1.1（交通量-10%）          事業費変動：B/C=1.2（事業費+10%） B/C=1.2（事業費-10%）          事業期間：B/C=1.2（事業費+1年） B/C=1.3（事業費-1年）</p>					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流効率化の支援（下関ICから特定重要港湾下関港沖合人工島の所要時間：約26分 約13分）</li> <li>主要な渋滞ポイントの解消（幡生駅前交差点、幡生口交差点）</li> <li>歩行者の安全性向上（通学路の歩道幅員：1.0m 3.5m）等</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	<p>幡生綾羅木線は、交通渋滞の緩和、交通安全の確保及びJR線により東西に分断されている地域の交流軸としての役割を期待されており、下関市から早期整備の要望(H18.7.6、H18.11.15)を受けている。</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>平成20年度の人島供用開始にあわせて、関連する下関北バイパス（直轄）及び一般県道武久棕野線（県）は平成17年度に供用開始している。</p>					
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>用地取得は完了しており、平成19年度に供用開始予定である。</p>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>平成19年度内の供用開始を目指し、工事を促進していく。</p>					
施設の構造や工法の変更等	<p>周辺住民より騒音・振動に対して苦情があったため、掘削機械の変更等を行った。</p>					
対応方針	見直し継続					
対応方針決定の理由	一部事業区域を縮小するものの、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。